



資料館インフォメーション



四大公害病資料館が連携して、公害被害の教訓を活かす取り組みの輪を広げます

■ 語り部による伝承会

熊本、新潟、三重、富山の四大公害病の語り部の方々が資料館に集まり、それぞれの被害の講話と教訓の継承策などについての意見交換会を開催します。

日程：平成26年9月27日(土) 午後1時30分～午後5時
場所：富山県立イタイタイ病資料館 2階交流学習ルーム
内容：語り部講話、意見交換会

■ 公害資料館連携フォーラム in 富山

全国の公害資料館や環境 NPO 等の関係者が集まり、今後の公害伝承やそれぞれが果たす役割について話し合います。

日程：平成26年12月5日(金)～7日(日)
場所：富山県立イタイタイ病資料館 2階交流学習ルーム
内容：フィールドワーク、基調講演、分科会

■ イタイタイ病を考える県民フォーラム

小学生や大学生によるイタイタイ病の学習状況や研究成果などの発表、環境や公害問題に関する講演会を開催します。

日程：平成27年2月14日(土) <開催時間、内容は未定>

学びの輪を国内外へ

シンガポールの中学生来館

昨年に続き、婦中地区少年少女海外派遣事業のシンガポール中学生受入事業に参加した s t . マーガレットセカンダリースクール(中学校)の生徒と引率者30名が来館されイタイタイ病を学びました。音声ガイドを使った資料館の見学や通訳を通じた小松雅子さんの語り部を聴講し、言葉の違いはありましたが、しっかりとイタイタイ病の恐ろしさとその克服の歴史、環境と健康の大切さについて理解されました。



国外への情報発信を強化しています

資料館の韓国語版ホームページの内容(バーチャル展示室)を拡充するとともに、イタイタイ病の概要をわかりやすく解説したガイダンス映像も韓国語版で制作したことで、さらに国外からの来館者への対応が充実しました。今後ロシア語にも対応する予定です。



韓国語版ホームページの拡充 韓国語版ガイダンス映像の制作

課外学習サポート事業 ～利用校を募集しています～

より多くの学生にイタイタイ病の恐ろしさやその克服の歴史を学んでいただけるよう、学校や施設等を起点・終点として、資料館までの「無料送迎バス」を提供する「課外学習サポート事業」を実施しています。今年度から四季防災館との連携事業により2館を利用される際は、無料区間が延長されることになりました。

- ◆対象：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学等
- ◆原則1日1校まで先着順にて受付
- ※詳しくは、資料館のホームページをご覧ください。

資料館の動き

これまでの出来事

平成26年	
3月30日(日)	入館者70,000人達成(595日目)
4月26日(土)～5月6日(火・振休)	春の特別企画展「萩野昇の生きた時代」
6月21日(土)	語り部と共に考える「イタイタイ病講座」
8月1日(金)～2日(土)	夏休み自由研究講座～イタイタイ病を学ぼう～
8月8日(金)	イタイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー
8月10日(日)	入館者80,000人達成(706日目)

これからの行事予定

9月27日(土)	語り部による伝承会
12月5日(金)～7日(日)	公害資料館連携フォーラムin富山
12月26日(金)	小学校教員向け研修会
平成27年	
1月27日(火)～29日(木)	イタイタイ病映像展
2月14日(土)	イタイタイ病を考える県民フォーラム

メールマガジン 【登録者募集中】

月に1回、資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は、次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaitai-dis.jp】

発行/富山県立イタイタイ病資料館

〒939-8224 富山県富山市友杉151番地(とやま健康パーク内)

電話▶076-428-0830 FAX▶076-428-0833

URL▶http://itaitai-dis.jp



富山県立イタイタイ病資料館
Toyama Prefectural Itai-itai Disease Museum

資料館だより

2014年 秋号

contents

春の特別企画展開催	2
子供向け夏休み企画開催	2
イタイタイ病の教訓継承に向けて	3
語り部コーナー	3
資料館インフォメーション	4



未来は過去にあり！ — 開館3年目の後半に入って —

富山県立イタイタイ病資料館 館長 鏡森 定信

公立の公害資料館としてすでに開館していた水俣と新潟に学びながらスタッフ一同無我夢中でやって来て、開館3年目の後半に入りました。この間、イタイタイ病被害の当事者、関係者そして来館者の皆さんに当館の運営面で大変お世話になり、また、多くのアドバイスをいただき改善にも努めてまいりました。これまでのご支援に感謝いたします。

この12月には、環境省の公募事業で、各地の公害資料館が一同に会し、取り組みを共有してそれぞれの活動に活かすための連携フォーラムの2回目の会が当館を会場として開催されます。我が資料館の今後の運営にとっても新たな視点が加わるものと期待しております。実際、この集まりをきっかけに、富山でイタイタイ病報道に携わったジャーナリストの向井さんが中心となって「イ

タイタイ病を語り継ぐ会」を立ちあげられ、先日設立記念シンポジウムが開催されました。

語り部の出前講話や市街地での映像展開催など、当館でも館外に向かっての活動も行ってはいますが、館外での市民の皆さんのイタイタイ病の学びとも連携していきたいと考えています。

歴史を振り返り、未来を思考する資料館としての役割を一層深めていきたいと思っております。



春の特別企画展「萩野昇の生きた時代」の開催

～イタイイタイ病の研究発表や故人ゆかりの方々の鼎談を行いました。～

4月26日から5月6日までの間、春の特別企画展として「萩野昇の生きた時代」を開催いたしました。開館3年目を迎え、初めて個人にスポットライトを当てた企画展として実施いたしました。企画展では、生前萩野昇氏が往診に使っていた靴や聴診器といった数々の愛用品や当時の貴重な写真など、約60点の展示を行いました。

特に、萩野昇氏がイタイイタイ病の原因がカドミウムであることを昭和36年に日本整形外科学会総会で発表する際の直筆の下書き原稿は、今回初めて一般に公開したものです。

また、開館記念日にあたる4月29日（昭和の日）には、カドミウムによる腎臓障害と骨軟化症との関係を病理学的に明らかにされた富山大学医学部6年の馬場逸人さんの研究発表と萩野昇氏にゆかりのお三方による鼎談を行いました。鼎談では、高木良信イタイイタイ病対策協議会副会長、青島恵子萩野病院院長、鏡森定信館長が、イタイイタイ病裁判の前後を中心に診療の様子や故人の人柄、当時の時代背景など思い出を交えて語り、ご功績を振り返りました。

今回の企画展では、原因究明と患者への献身的な治療を行った萩野昇氏の功績の紹介を通して、被害者の救済や環境被害の克服が多くの先人の努力の上にあることをあらためて確認し、今後二度と悲惨な公害を起こしてはいけないという思いを会場の皆様とともに強くいたしました。



夏休み企画

子どもたちがイタイイタイ病を学びました

自由研究講座～イタイイタイ病を学ぼう～

講座には、2日間で県内の小学3～6年生までの親子12組27名が参加し、自由研究に取り組みました。

この企画では、イタイイタイ病対策協議会の副会長で患者ご遺族の高木良信さんに自らの体験を交えて資料館の展示解説をしていただきました。語り部でもある高木さんのお話に参加者は真剣に耳を傾け、イタイイタイ病の被害の実態やその恐ろしさについて深く学びました。解説の合間には、クイズを行い、親子で展示や映像に隠された答え探しをしました。

また、水の汚れを測る実験を通して、清流を維持することの重要性を学びました。

【開催日時と内容】

8月1日(金)、2日(土) <13:30～16:30>

- ①高木良信さんによる展示解説
- ②ワークシートを用いたクイズ
- ③水の汚れの程度を調べる実験



高木良信さんの展示解説



水の汚れの程度を調べる実験

イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー

朝から雨が降りしきる悪天候の中、県内外から集まった小学5～6年生とその保護者11組26名が参加しました。

神岡鉱業(株)では、会社の概要説明を受けた後、工場内の30m シックナー（排水処理施設）や排水管理センター、和佐保たい積場を見学し、工場内の排水が現在どのように処理・管理されているか学びました。

また、バスツアーでは、復元田や太陽光発電所も見学し、汚染農地の現況や地球環境に優しい再生可能エネルギーについても学習しました。

【開催日時と内容】

8月8日(金)<8:20～16:50>

- ①資料館⇒②富山市塩地区復元田⇒③神岡鉱業(株)⇒④富山太陽光発電所PR館⇒⑤資料館

参加者の声

イタイイタイ病に関心を持つことができるようになりました。
(小学6年生 女子)

親子共に学ぶ機会は大事だと考えており、今後もこのような機会を提供して欲しいです。
(40代保護者 男性)

子どもには少し内容が難しく感じましたが、親とすれば大変勉強になりました。(40代保護者 女性)



イタイイタイ病の教訓継承のため、新たな取り組みを進めています

初めて『出前語り部』を行いました。

4月22日（火）滑川市の通所介護施設で語り部の若林カズ子さんが、資料館では初めての試みとなる出前語り部を行いました。若林さんの嫁ぎ先のお祖母さんが闘病生活を送っておられた昭和30年代から40年代のお話に参加者は時には涙しながら真剣に聞き入っておられました。

今回の出前語り部は、身体的な都合や交通手段の問題などから資料館に来館できない方々を対象に試行的に実施したのですが、今後申込状況や受入態勢等を勘案しながら本格実施ができないか検討していきたいと考えています。



語り部と共に考える『イタイイタイ病講座』を開催しました。

6月21日（土）に語り部と共に考える『イタイイタイ病講座』を開催しました。昨年度までは、語り部や解説ボランティアの研修会として実施してきましたが、今年度は一般の方々にもご参加いただき実施いたしました。前半は、奈良教育大学の渡邊伸一教授に「イタイイタイ病問題の社会的考察」－公害問題としての特徴と被害者運動の意義－というテーマで講演していただき、公害被害地域の問題を社会的な視点から研究された成果を解りやすくお話をいただきました。

後半は、渡邊教授にも参加いただき、資料館の語り部5名と高木勲寛イタイイタイ病対策協議会会長、鏡森館長により、「被害地域におけるイタイイタイ病患者の生活」と題して意見交換会を行いました。意見交換会で実体験に基づいて語られる語り部のお話に参加の方々も現代では考えられないような患者を取り巻く家族の対応の様子や社会的な背景に驚きながらも真剣に聞き入っておられました。講座の最後には高木会長より今後の語り部が担っていく役割や語り部に期待することについてお話をいただきました。

イタイイタイ病の教訓を後世に伝えるために資料館や語り部が今後果たすべき役割について、それぞれが考えさせられる講座となりました。



今回紹介する「語り部」さんは、大上久彦さんです。

大上さんの祖母のツイさんがイタイイタイ病の認定患者でした。1945年（昭和20年）頃に発症し、1972年（昭和47年）3月に85歳で亡くなりました。

おばあさんを弟と二人で五右衛門風呂に入れ、入浴のお世話をされた思い出を中心に、当時の患者さんを取りまく環境や生活の様子などをわかりやすく語られる講話は、聴講者の心に深く響きます。

『私の抱負』大上久彦さん(71歳)

私の祖母ツイは、昭和20年頃からイタイイタイ病を発症し、昭和47年に85歳で亡くなりました。いつも菅笠やごぎを持って農作業に従事していましたが、病気の進行とともに、腰がひどく曲がり、引き戸に掴まりながら廊下を這って家の中を移動していました。また、家族が寝静まった夜中に「イタイ、イタイ」と一人で訴えていたことを今でも覚えています。祖母は、お風呂が好きな人で、小学生であった私と弟が五右衛門風呂の準備をし、入浴時に背中を流してあげることでとても喜んでくれたのがよい思い出となっています。祖母が亡くなった際に親戚の人が「嫌いな薬を飲まなくてよくなった。痛い思いをしなくてよくなりました。」と言っていたことや父親が火葬後に残った骨の量の少なさに驚いていたことが私にはとても強く印象に残っています。

私は、祖母がイタイイタイ病という公害により、長期間苦しみ、悲痛な思いで亡くなったことが残念でなりません。この事実を風化させないよう、イタイイタイ病の恐ろしさやその悲惨さを次世代に語り継いで行きたいと思い私は語り部として活動しています。資料館への来館が、公害の恐ろしさや健康・命の大切さについて学校や家庭で話し合うきっかけにづくりになることができたらと思っています。

私は、祖母がイタイイタイ病という公害により、長期間苦しみ、悲痛な思いで亡くなったことが残念でなりません。この事実を風化させないよう、イタイイタイ病の恐ろしさやその悲惨さを次世代に語り継いで行きたいと思い私は語り部として活動しています。資料館への来館が、公害の恐ろしさや健康・命の大切さについて学校や家庭で話し合うきっかけにづくりになることができたらと思っています。

語り部講話の聴講者を募集しています
対象は10名以上の団体で、事前申込が必要です。
詳しくは資料館のホームページをご覧ください。



語り部講話の感想

おばあさんが亡くなった時に親戚が言っていた「死んで楽になってよかった」という言葉が、イタイイタイ病の辛さや怖さを物語っているのだと思いました。
(中学生 女子)

ご家族を実際に看病されたご苦労や貴重な体験をお聞きし、イタイイタイ病の怖さ、患者・家族の無念さがよくわかりました。
(60代 女性)

イタイイタイ病になってしまった方の心境及び患者を介護されたご家族のご苦労を考えると公害の恐ろしさを再認識しました。
(70代 女性)

